

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	吃音		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 6,7限他	教室名	402他
担 当 教 員	圓越 広嗣	実務経験と その関連資格	現在、関西電力病院に言語聴覚士として勤務。前職場までで13年以上、300症例以上吃音臨床に携わっており、RASS吃音研究会の運営委員を担当している。			
《授業科目における学習内容》						
吃音についての基礎的知識を理解し、対応方法や訓練方法について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
(教科書)都筑澄夫編著「間接法による吃音訓練 自然で無意識な発話への遡及的アプローチ」三輪出版 (参考図書)都筑澄夫編著「改訂吃音」建帛社						
《授業外における学習方法》						
テキストを読み、予習・復習をしておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
吃音は、表面に出ている症状だけでなくその背後にある症状も理解し、心理的側面を考慮しながら対応する必要があります。吃音者特有の価値観・考え方や吃音悪化要因を理解し、効果的な対応や訓練ができるように、実例を交えて講義します。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	吃音症状と当事者の苦悩について理解できる	プロジェクター		
		各コマに おける 授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	吃音の種類、発生率、自然治癒率、原因論について説明できる	プロジェクター スピーカー	(予習課題)「改訂吃音」p8～17	
		各コマに おける 授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク			
第3回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	吃音症状、進展段階、吃音悪化要因の説明ができる	プロジェクター スピーカー	(予習課題)「改訂吃音」p18表2-4、p83図4-3、p94表4-4、「間接法」p2～27	
		各コマに おける 授業予定	教科書を用いた講義と、症状の動画視聴			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	直接法と間接法の違いについて説明ができる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p36～42、p63～73	
		各コマに おける 授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	RASS(自然で無意識な発話への遡及的アプローチ)の説明ができる	プロジェクター	(予習課題)「間接法」p30～56	
		各コマに おける 授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	環境調整法の説明ができる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	吃音質問紙の情報を分析できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク 小テスト1回目		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	小児の症例を通じて、環境調整法の実際の流れを説明できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
		各コマにおける授業予定	小テスト1回目のフィードバック 教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	環境調整法による指導ができる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	メンタルリハーサル法の目的が説明できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p78～121、「間接法」p90～103
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	メンタルリハーサル法の導入について説明できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p78～121、「間接法」p90～103
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク 小テスト2回目		
第12回	講義 形式	授業を通じての到達目標	成人の症例を通じて、メンタルリハーサル法の流れを説明できる	プロジェクター	(予習課題)「間接法」p144～164
		各コマにおける授業予定	小テスト2回目のフィードバック 教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	メンタルリハーサル法の拮抗刺激について説明・作成できる	プロジェクター	(予習課題)「間接法」p144～164
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	臨床の一連の流れを説明できる	プロジェクター	
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	症例からの様々な質問に対応できる	プロジェクター	
		各コマにおける授業予定	グループワークと講義		